

柏の景気情報（平成20年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成20年4月分）

○ 調査期間 : 平成20年4月22日 ~ 4月25日

○ 調査対象 : 柏市内111事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	111	81	73.0%
建設	19	13	68.4%
製造	26	20	76.9%
卸・小売	43	31	72.1%
サービス	23	17	73.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年4月の調査結果のポイント】

《業況DIは依然としてマイナス40台 原材料高騰により、仕入れ単価では建設業がマイナス80台へ》

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲41.9(前月水準▲40.5)となり、マイナス幅が▲1.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.4(同▲57.1)、製造業▲20.0(同▲22.2)、変らない業種は、卸小売業▲54.8(同▲54.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲47.0(同▲18.7)であり、マイナス幅が▲28.3ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「建築基準法影響などで、受注が減っている」(板金・金物工事業)といったコメントや、「従業員の確保は出来たが、来年も人員確保ができるか心配。他業者の従業員確保及び、定着率の対策も参考にしたい」(家庭用機械器具小売業)、といった従業員確保不安のコメントが寄せられた。

【製造業】では、「ピーク時には700台もの貼合機械が稼働していたが、最近では450台。相次ぐ再編成、工場統廃合、倒産、廃業等である」(紙製容器製造業)との厳しい業況に関するコメントがあった。また、「建築基準法が今年4月より改正され、売値が変わらず、仕入れ値が上昇した分、採算が悪化。また、建築確認届出を改訂前は外部に依頼することが出来たが、それができなくなり人件費増」(その他の設備工事業)といった建築基準法による影響のコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「春休みにより集客があったことや、マザーニーズ商材の動きが良かったことから、売上高は昨年を上回る好調な出足となった」(各種商品小売業)など、売上好調のコメントが寄せられたが、一方「飲食店、小規模商店など苦戦している。ただ、売上の悪い店と良い店との差がはっきり表れている」(食料・飲料卸売業)、「売上高、利益の減少は、商圏内の各商業施設も同様の状況にある。紳士服、婦人服を始め、これまで好調であった身の回り品においても厳しい状況」(百貨店)といった、厳しい業況に関する声も多く寄せられた。また、「4月から一部の一般食品の値上げや、原油税の先行き不安、年金問題等により、消費者の購買力が減退ぎみになっている」(食料・飲料卸売業)、といった、今後の先行きに対する不安の声も寄せられた。そのほか「文具、事務機の見本市に行くが、世代交代がなく若手の顔が見えない」(書籍・文房具小売業)といったコメントも寄せられている。

【サービス業】では、「宿泊は柏市内では稼働率、一室単価ともに減。宴会は謝恩会等大型宴会増」(ホテル)といった声の他、「土日にお客様が集中して、平日の売り上げが伸びない」(食堂・レストラン)との声や、「先行き不透明で非常に厳しい」(民間放送業)といった、いずれも厳しい業況に対するコメントが寄せられている。

○原材料高騰

各業種から「4月よりほとんどの材料が値上がりしているが、積算通りに予算が通らない。品質の低下にならなければ…と心配」(電気工事業)、「原材料の値上げが続く、特に乳製品、チーズ系は30%アップ。なかなか商品に価格を転化できず苦戦」(菓子・パン小売業)、「4月LPガス仕切り価格多少値下げ、その分灯油値上がり。不需求期になるがブタンの高値が続いているのでそれに引っ張られ、プロパン価格も再値上げになるだろう」(燃料小売業)、「原材料値上げがペットフードで相次いでいます」(獣医業)といった原材料・原油価格高騰の影響の声が多く寄せられた。また、一連の高騰に対し「PB商品の開発にグループ企業が一体となって取り組み、価格上昇を抑える努力をしている」(その他の各種商品小売業)、などといったコメントも寄せられた。

○売上減少

原材料高騰の影響から、各業種から「良い方向へは向いているが、原料等の価格高騰により収益は伸びず」(その他の鉄鋼業)、「投機的な石油や食材料の値上がりで利益が取れない」(その他の飲食料品小売業)「飲食店はむずかしい経営になっている。昨年2月の店舗改装により、前年同月は3・4・5月と改装効果があったが、今月も売上は悪くないが、減少した」(酒場・ピヤホール)などといった、売上減少の声も多く寄せられた。

○先行き不安

「見切りに入った春物を中心に、低価格のものが売れているが、消費者の購買意欲は低く先行き不安」(その他の各種商品小売業)、「先行き不透明で非常に厳しい」(民間放送業)といった、先行きの不透明さへの不安の声が多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲31.7	▲23.5	▲23.8	▲40.7	▲35.2
12月	▲27.8	▲35.7	±0.0	▲40.0	▲31.2
1月	▲32.9	▲46.6	▲20.0	▲34.4	▲33.3
2月	▲44.4	▲52.9	▲10.5	▲61.2	▲42.8
3月	▲40.5	▲57.1	▲22.2	▲54.8	▲18.7
4月	▲41.9	▲38.4	▲20.0	▲54.8	▲47.0
見通し	▲29.6	▲15.3	▲20.0	▲41.9	▲29.4

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.0	▲ 13.5	▲ 46.9	▲ 24.6	▲ 66.6	▲ 58.0	△ 4.9	△ 4.9
建設	▲ 7.6	▲ 23.0	▲ 61.5	▲ 30.7	▲ 84.6	▲ 69.2	▲ 15.3	▲ 7.6
製造	▲ 5.0	△ 5.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 75.0	▲ 65.0	△ 15.0	△ 15.0
卸・小売	▲ 19.3	▲ 25.8	▲ 51.6	▲ 35.4	▲ 61.2	▲ 48.3	▲ 6.4	▲ 9.6
サービス	▲ 29.4	▲ 5.8	▲ 47.0	▲ 17.6	▲ 52.9	▲ 58.8	△ 29.4	△ 29.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 41.9	▲ 29.6	▲ 17.2	▲ 12.3
建設	▲ 38.4	▲ 15.3	▲ 23.0	▲ 7.6
製造	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 10.0
卸・小売	▲ 54.8	▲ 41.9	▲ 9.6	▲ 16.1
サービス	▲ 47.0	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 11.7

【平成20年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲41.9(前月水準▲40.5)となり、マイナス幅が▲1.4ポイント拡大した。

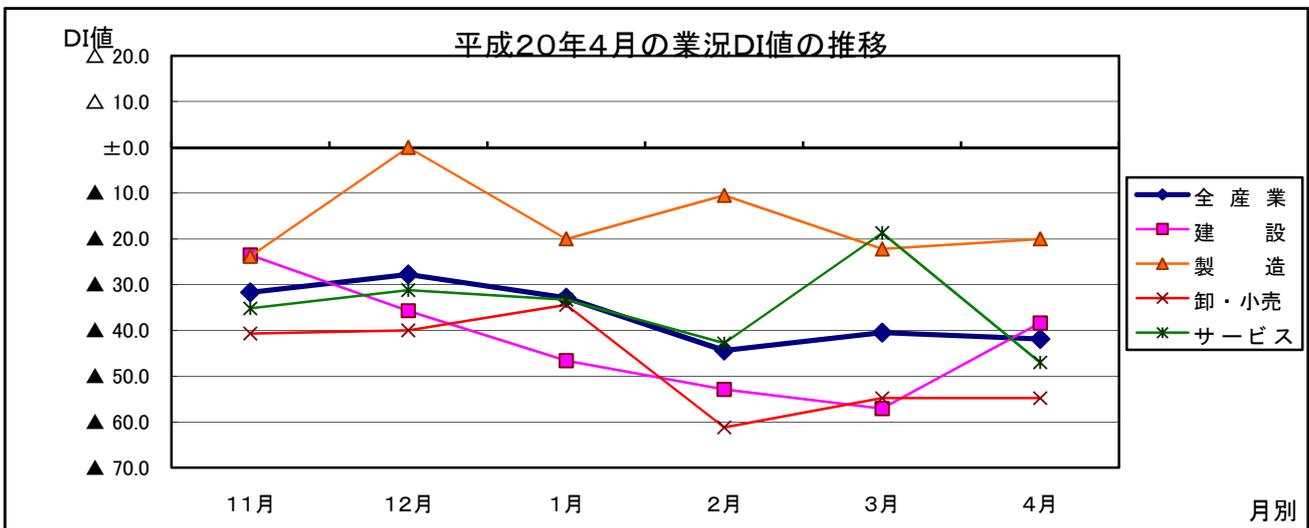
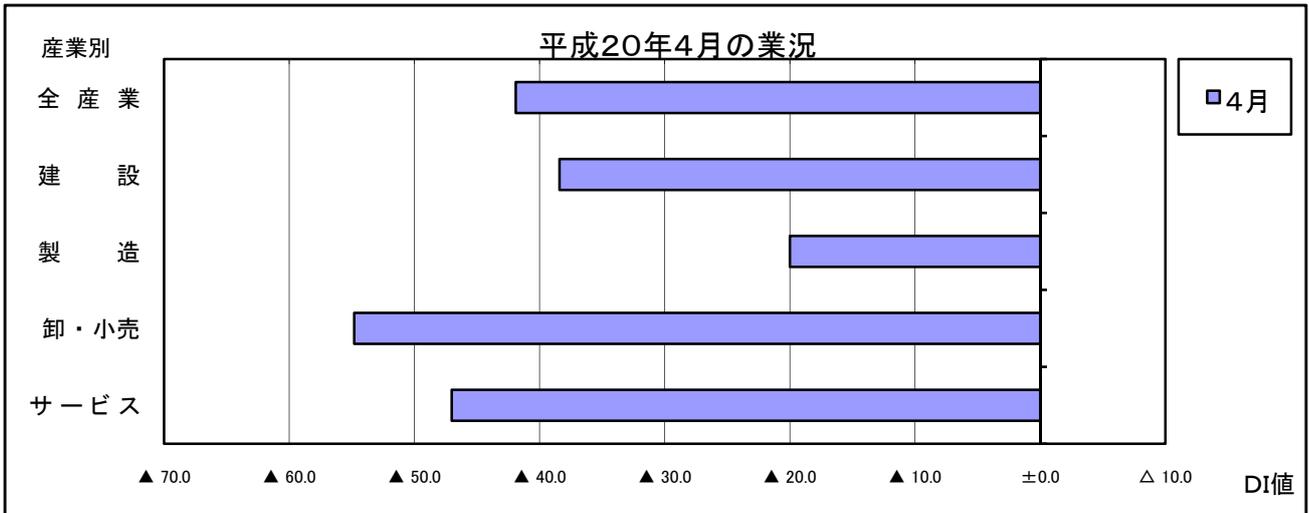
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.4(同▲57.1)、製造業▲20.0(同▲22.2)、変らない業種は、卸小売業▲54.8(同▲54.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲47.0(同▲18.7)であり、マイナス幅が▲28.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.6(前月水準▲31.6)となり、マイナス幅が△2.0ポイント縮小する見通し

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同▲35.7)、卸小売業▲41.9(同▲18.3)、サービス業▲29.4(同▲31.2)であり、特に、建設業はマイナス幅が△20.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲20.0(同±0.0)であり、マイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲31.7	▲27.8	▲32.9	▲44.4	▲40.5	▲41.9	▲29.6(▲31.6)
建設	▲23.5	▲35.7	▲46.6	▲52.9	▲57.1	▲38.4	▲15.3(▲35.7)
製造	▲23.8	±0.0	▲20.0	▲10.5	▲22.2	▲20.0	▲20.0(±0.0)
卸・小売	▲40.7	▲40.0	▲34.4	▲61.2	▲54.8	▲54.8	▲41.9(▲48.3)
サービス	▲35.2	▲31.2	▲33.3	▲42.8	▲18.7	▲47.0	▲29.4(▲31.2)



【平成20年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が▲3.4ポイント拡大した。

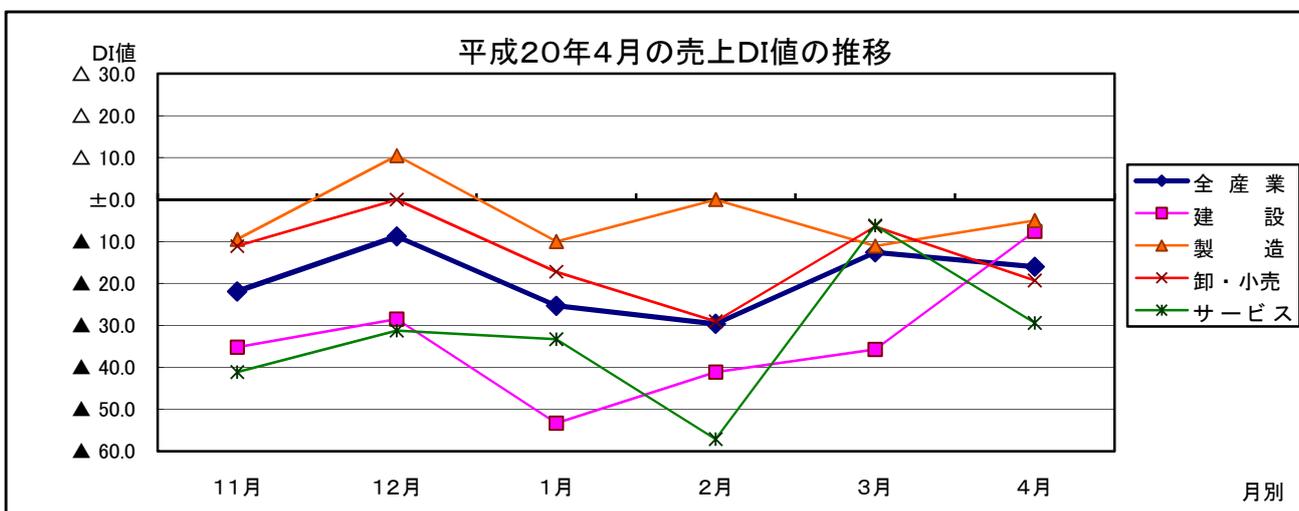
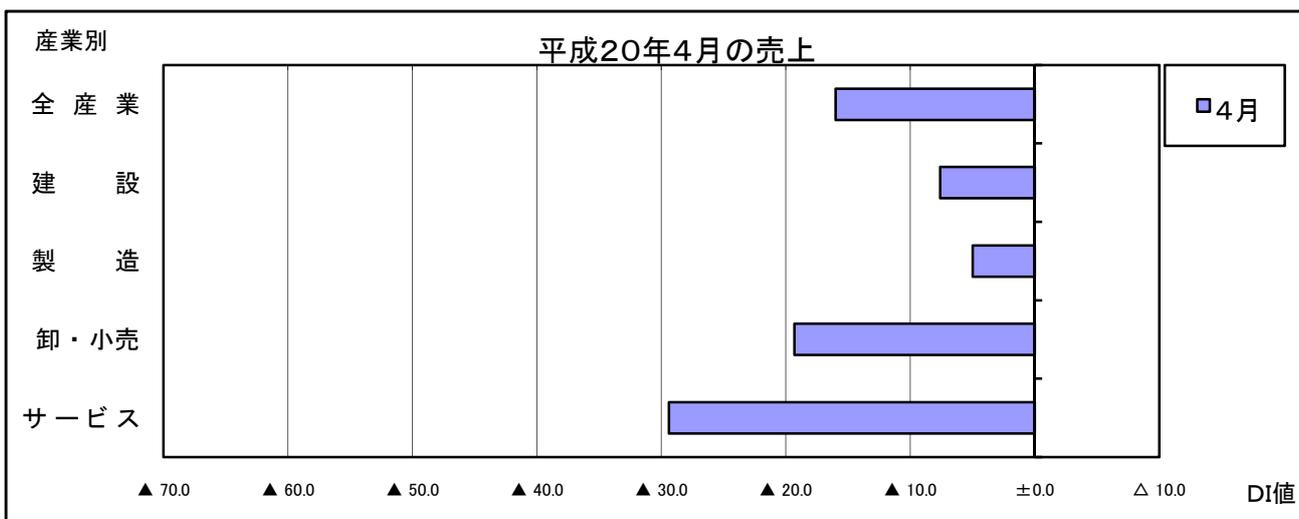
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲7.6(同▲35.7)、製造業▲5.0(同▲11.1)であり、特に、建設業はマイナス幅が△28.1ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲29.4(同▲6.2)、卸小売業▲19.3(同▲6.4)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲23.2ポイントと大幅

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.5(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が▲0.9ポイント拡大する見通し

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲23.0(同▲35.7)、サービス業▲5.8(同▲6.2)であり、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.0(同△11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲25.8(同▲19.3)である。

平成20年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲21.9	▲8.8	▲25.3	▲29.6	▲12.6	▲16.0	▲13.5(▲12.6)
建設	▲35.2	▲28.5	▲53.3	▲41.1	▲35.7	▲7.6	▲23.0(▲35.7)
製造	▲9.5	△10.5	▲10.0	±0.0	▲11.1	▲5.0	△5.0(△11.1)
卸・小売	▲11.1	±0.0	▲17.2	▲29.0	▲6.4	▲19.3	▲25.8(▲19.3)
サービス	▲41.1	▲31.2	▲33.3	▲57.1	▲6.2	▲29.4	▲5.8(▲6.2)



【平成20年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.9(前月水準▲32.9)となり、マイナス幅が▲14.0ポイント拡大した。

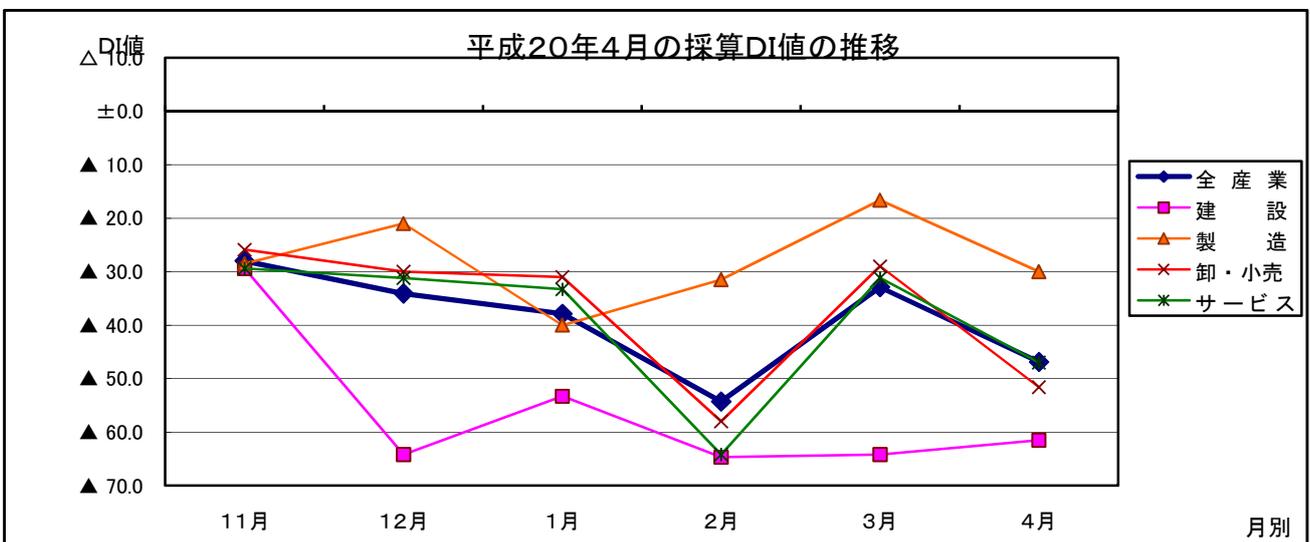
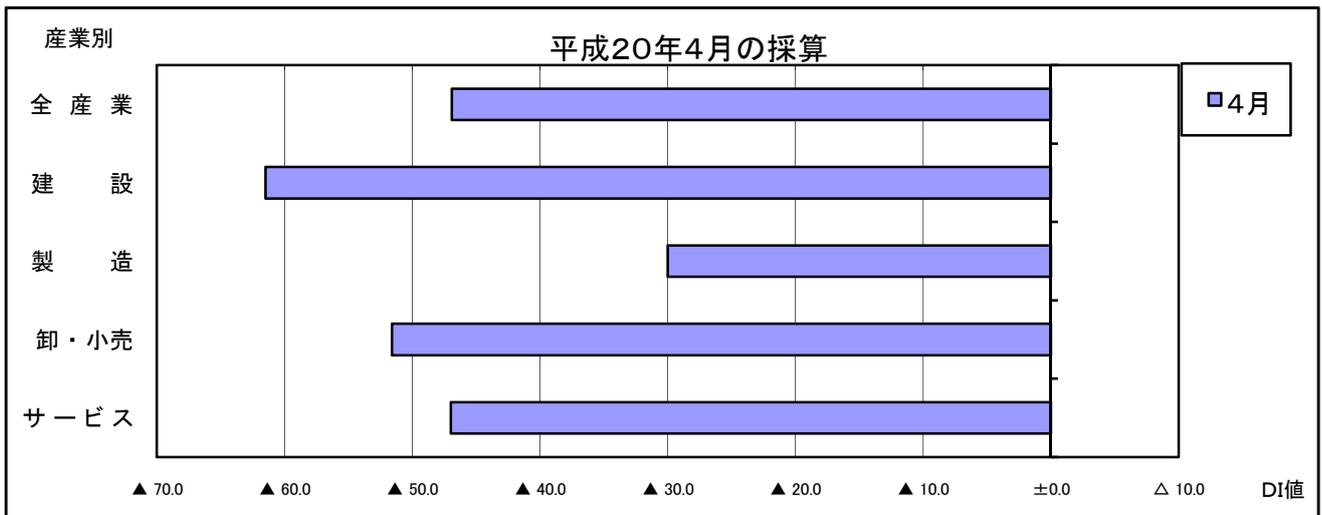
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲61.5(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲51.6(同▲29.0)、サービス業▲47.0(同▲31.2)、製造業▲30.0(同▲16.6)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲22.6ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.6(前月水準▲29.1)となり、マイナス幅が△4.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲30.7(同▲50.0)、製造業▲10.0(同▲27.7)、サービス業▲17.6(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲35.4(同▲22.5)である。

平成20年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲28.0	▲34.1	▲37.9	▲54.3	▲32.9	▲46.9	▲24.6(▲29.1)
建設	▲29.4	▲64.2	▲53.3	▲64.7	▲64.2	▲61.5	▲30.7(▲50.0)
製造	▲28.5	▲21.0	▲40.0	▲31.5	▲16.6	▲30.0	▲10.0(▲27.7)
卸・小売	▲25.9	▲30.0	▲31.0	▲58.0	▲29.0	▲51.6	▲35.4(▲22.5)
サービス	▲29.4	▲31.2	▲33.3	▲64.2	▲31.2	▲47.0	▲17.6(▲25.0)



【平成20年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲66.6(前月水準60.7)となり、マイナス幅が▲5.9ポイント拡大した。

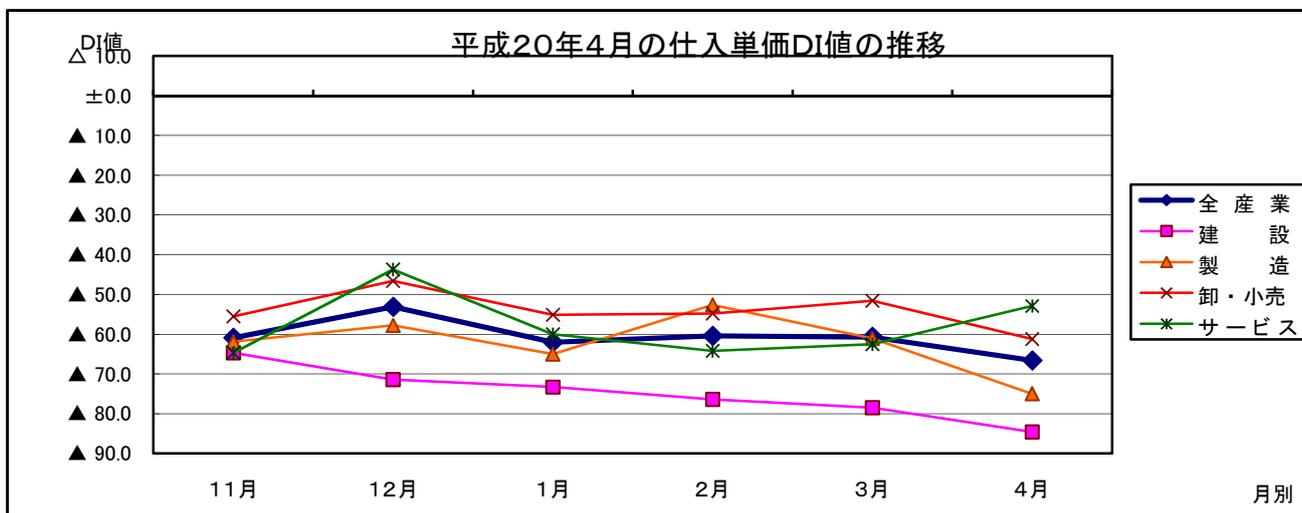
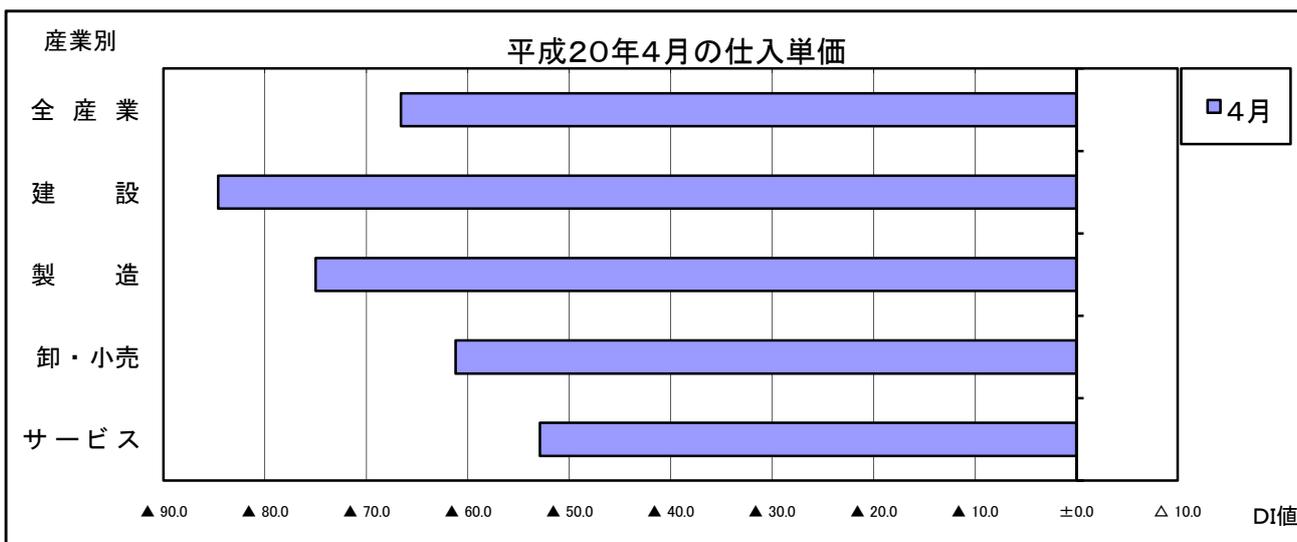
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲52.9(同▲62.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲75.0(同▲61.1)、卸小売業▲61.2(同▲51.6)、建設業▲84.6(同▲78.5)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲58.0(前月水準▲49.3)となり、マイナス幅が▲8.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、すべての業種において、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通し。幅の大きい順に、サービス業▲58.5(同▲37.5)、卸小売業▲48.3(同▲41.9)、建設業▲69.2(同▲64.2)、製造業▲65.0(同▲61.1)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲21.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲60.9	▲53.1	▲62.0	▲60.4	▲60.7	▲66.6	▲58.0(▲49.3)
建設	▲64.7	▲71.4	▲73.3	▲76.4	▲78.5	▲84.6	▲69.2(▲64.2)
製造	▲61.9	▲57.8	▲65.0	▲52.6	▲61.1	▲75.0	▲65.0(▲61.1)
卸・小売	▲55.5	▲46.6	▲55.1	▲54.8	▲51.6	▲61.2	▲48.3(▲41.9)
サービス	▲64.7	▲43.7	▲60.0	▲64.2	▲62.5	▲52.9	▲58.8(▲37.5)



【平成20年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.9(前月水準△21.5)となり、プラス幅が▲16.6ポイント縮小した。

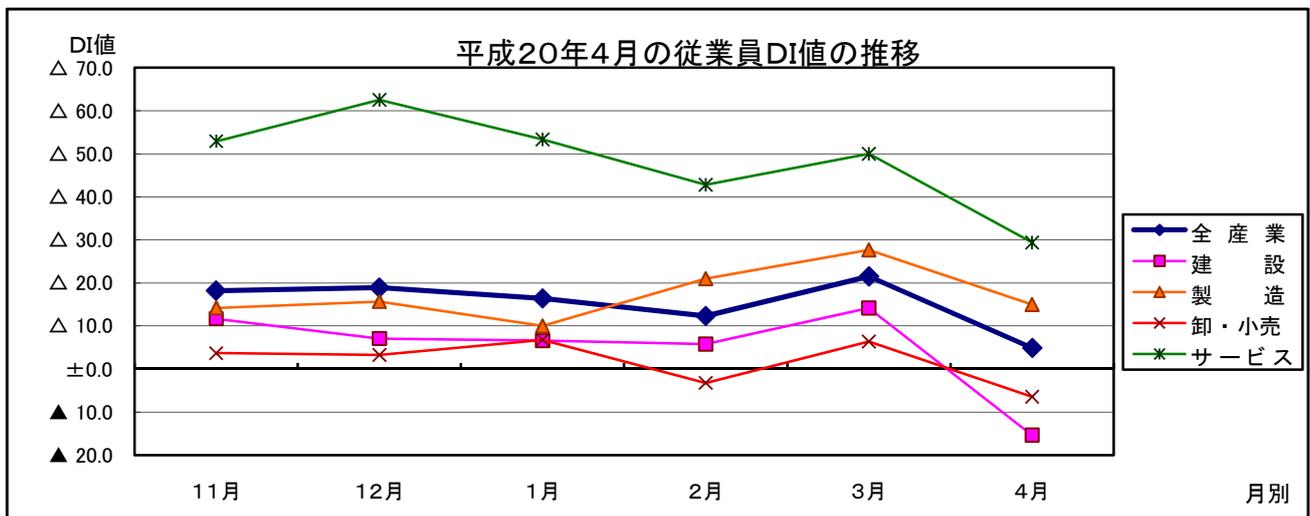
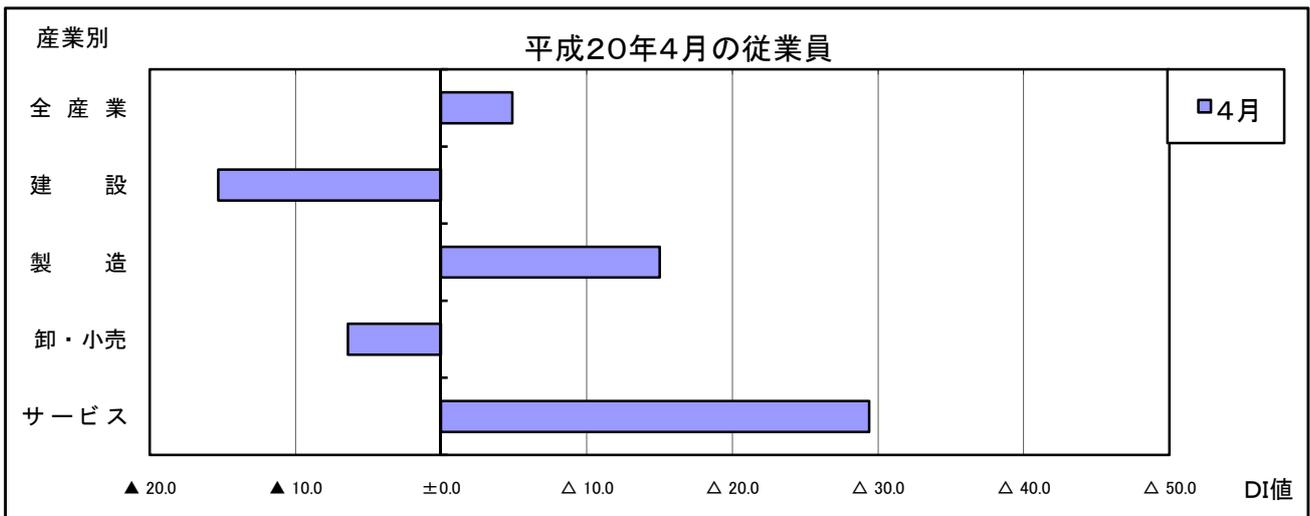
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業△15.0(同△27.7)、サービス業△29.4(同△50.0)である。特に、サービス業はプラス幅が▲20.6ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同△14.2)、卸小売業▲6.4(同△6.4)であり、特に、建設業は▲29.5ポイントと大幅に悪化し

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.9(前月水準△11.3)となり、プラス幅が▲6.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△29.4(同△31.2)、製造業△15.0(同△33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲7.6(同±0.0)、卸小売業▲9.6(同▲6.4)である。

平成20年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	△18.2	△18.9	△16.4	△12.3	△21.5	△4.9	△4.9(△11.3)
建設	△11.7	△7.1	△6.6	△5.8	△14.2	▲15.3	▲7.6(±0.0)
製造	△14.2	△15.7	△10.0	△21.0	△27.7	△15.0	△15.0(△33.3)
卸・小売	△3.7	△3.3	△6.8	▲3.2	△6.4	▲6.4	▲9.6(▲6.4)
サービス	△52.9	△62.5	△53.3	△42.8	△50.0	△29.4	△29.4(△31.2)



【平成20年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17. 2(前月水準▲16. 4)となり、マイナス幅が▲0. 8ポイント拡大した。

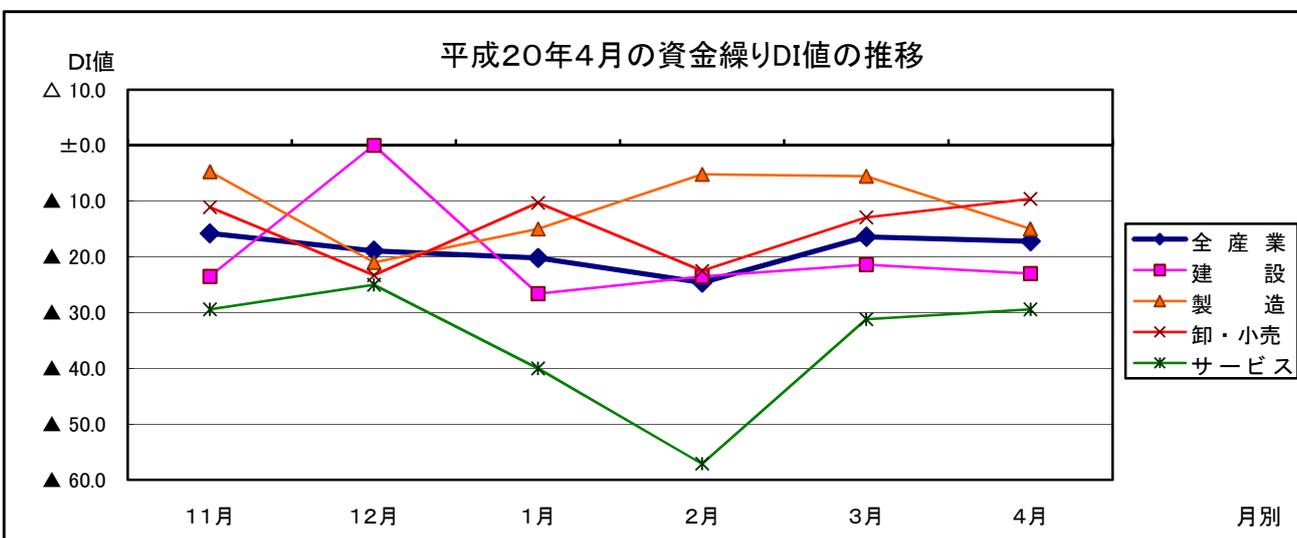
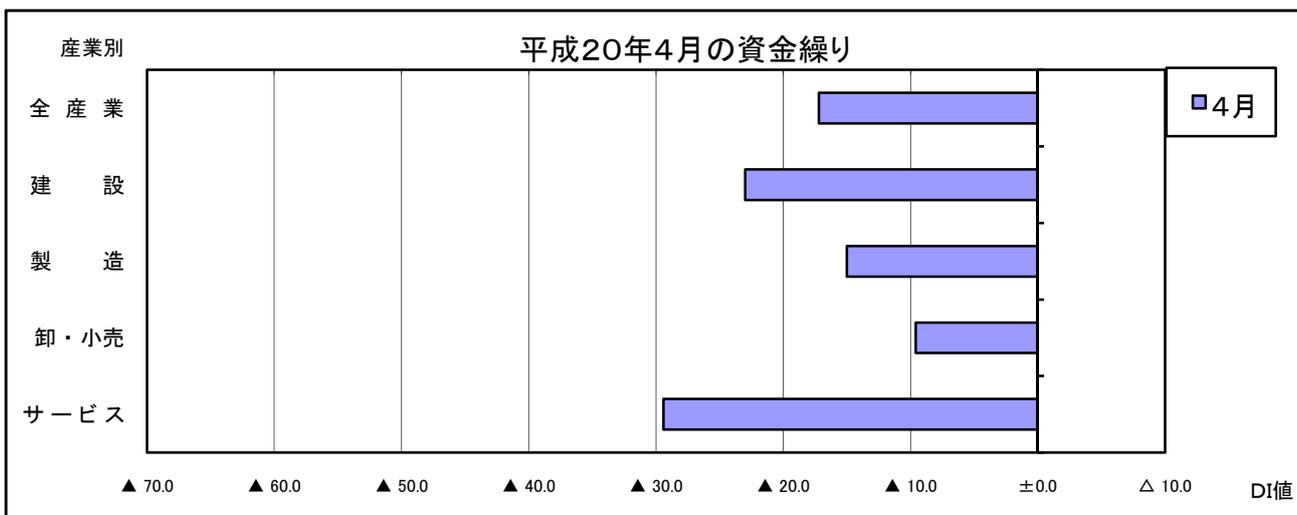
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲9. 6(同▲12. 9)、サービス業▲29. 4(同▲31. 2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲15. 0(同▲5. 5)、建設業▲23. 0(同▲21. 4)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12. 3(前月水準▲12. 6)となり、マイナス幅が△0. 3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲11. 7(同▲37. 5)であり、マイナス幅が△25. 8ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲10. 0(同±0. 0)、卸小売業▲16. 1(同▲9. 6)、建設業▲7. 6(同▲7. 1)である。

平成20年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲15.8	▲18.9	▲20.2	▲24.6	▲16.4	▲17.2	▲12.3(▲12.6)
建設	▲23.5	±0.0	▲26.6	▲23.5	▲21.4	▲23.0	▲7.6(▲7.1)
製造	▲4.7	▲21.0	▲15.0	▲5.2	▲5.5	▲15.0	▲10.0(±0.0)
卸・小売	▲11.1	▲23.3	▲10.3	▲22.5	▲12.9	▲9.6	▲16.1(▲9.6)
サービス	▲29.4	▲25.0	▲40.0	▲57.1	▲31.2	▲29.4	▲11.7(▲37.5)



【平成20年4月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	建築基準法影響などで、受注が減っている上、材料値上げがプラスされ、厳しい状況です。打開策が必要です	建築基準法 受注減少 原材料高騰	板金・金物工事業
	4月は新卒入社6名、他4名入社しており、従業員の確保は出来ましたが、来年も人員確保ができるか心配しています。他業者の従業員確保及び、定着率の対策も参考にしたいと考えています	従業員確保	家庭用機械器具小売業
	4月よりほとんどの材料が値上がりしているが、積算通りに予算が通らない。品質の低下にならなければ…と心配	原材料高騰 不採算見積 品質低下	電気工事業
製造	段ボール業界では、ピーク時には700台もの貼合機械が稼働していたが、最近では450台となっている。相次ぐ再編成、工場統廃合、倒産、廃業等である。これからは更に、生産性、コスト、品質などで激しい競争が予想される	稼働率低下 競争激化	紙製容器製造業
	良い方向へは向いているが、原料等の価格高騰により収益は伸びず	原材料高騰 収益圧迫	その他の鉄鋼業
	エレベータ建築基準法が今年4月より改正され、売値が変わらず、仕入れ値が上昇した分、採算が悪化。また、建築確認届出を一級建築士が行うことが(自社社員として)従来通り行われる。改訂前は外部に依頼することが出来たが、それができなくなり、人件費増となる	建築基準法 仕入れ上昇 採算悪化 人件費増加	その他の設備工事業
	機械に使用する鋳物の納期が逼迫している。又、業者から化学製品関係の機械消耗品の値上要求があった	消耗品値上げ	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	飲食店、小規模商店など苦戦していると思います。ただ、売上の悪い店と良い店との差がはっきり表れているようにみえます。	小規模商店苦戦 業績格差	食料・飲料卸売業
	売上高、利益の減少は当社固有の問題もありますが、商圈内の各商業施設も同様の状況にあるようです。食料品以外は、紳士服、婦人服を始め、これまで好調であった身の回り品(紳士・婦人雑貨系)においても厳しい状況にあります	利益減少 身の回り品 厳しい業況	百貨店
	野菜全般は、やや高めの価格で推移していますが、果実は入荷減単価安が続いています。4月から一部の一般食品の値上げや、原油税の先行き不安、年金問題等により、消費者の購買力が減退ぎみになっている感があります。今後とも青果物等の商品動き変化に注目しながら、対応を図っていきます	食料品値上げ 野菜単価高 果実単価安 購買意欲の減退 先行き不安	食料・飲料卸売業
	PB商品の開発にグループ企業が一体となって取り組み、価格上昇を抑える努力をしているが、NB商品は価格が上がっている	ブランド活用	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	原材料の値上げが続く、特に乳製品、チーズ系は30%アップ。なかなか商品に価格を転化できず苦戦	原材料高騰 乳製品値上げ 価格転嫁	菓子・パン小売業
	大型ショッピングセンターの大波も沈静化したように思う。文具、衣料品の新学期用品は絶好調であるが、投機的な石油や食材料の値上がりで利益が取れない。しかし昨年引き続き経営努力で良い決算ができそうです	新学期需要 売上好調 原材料高騰 利益圧迫	その他の飲食料品小売業

【平成20年4月の業種別業界内トピックス】

	4月LPガス仕切り価格値下げ(多少)、その分灯油値上がり。不需要期になるがブタンの高値が続いているのでそれに引っ張られ、プロパン価格も再値上げになるだろう・収益悪化に耐えられるかな	原油高騰 収益悪化	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	見切りに入った春物を中心に、低価格のものが売れているが、消費者の購買意欲は低く。先行き不安である。	低価格商品 購買意欲低下 先行き不安	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	売上減少、雨の影響かも?	売上減少 天候の影響	婦人・子供服小売業
	4月度月初は春休みにより集客があったことや、マザーニーズ商材の動きが良かったことから、売上高は昨年を上回る好調な出足となった。以降も昨年7・8階リニューアルによる休業があったことから、昨年を上回る推移となった。途中、悪天候により若干苦戦する日もあったが、全体では前年を大きく上回る推移となり、月末にかけては「ゴールデンウィークHappyFesta」フェアを実施し、売上に繋げた	春休み商戦 売上好調 天候の影響 ゴールデンウィーク	各種商品小売業
	文具、事務機の、見本市に行くが、世代交代がなく、若手の顔が見えない。これすなわちシフトがされてなく、文具店はなくなってしまうのでは?	世代交代	書籍・文房具小売業
	塗料メーカーが4月1日から一斉に値上げを通告してきた為、仕入れ価格は上昇した。徐々に売値に転嫁せざるを得ない	仕入れ上昇 価格転嫁	塗料卸売業
サービス	土日にお客様が集中して、平日の売り上げが伸びない	平日売上不振	食堂・レストラン
	宿泊…柏市内では稼働率、一室単価ともに減(3月度) 宴会…謝恩会等大型宴会増(3月度)	宴会増 宿泊減	ホテル
	先行き不透明で非常に厳しい	先行き不透明	民間放送業(有線放送業を除く)
	すべての食材が値上がり、特に揚げ物用のてんぷら油が異常な値上げ。商社がらみのオイルショックだと思う。また正社員からアルバイト、パート従業員へ変えたが、アルバイト賃金上昇等で厳しく、なおかつアルバイトの応募が少なく、労働集約型の飲食店はむずかしい経営になっている。昨年2月の店舗改装により、前年同月は3・4・5月と改装効果があったが、今月も売上は悪くないが、減少した。	原材料高騰 人件費増加 人材不足 売上減少	酒場・ビヤホール
	原材料値上げがペットフードで相次いでいます	原材料高騰	獣医業

【平成20年4月の多い景気キーワード】

◎原材料高騰

- ・ 材料値上げがプラスされ、厳しい状況です。打開策が必要です
- ・ 4月よりほとんどの材料が値上がりしているが、積算通りに予算が通らない。
- ・ 良い方向へは向いているが、原料等の価格高騰により収益は伸びず
- ・ 売値が変わらず、仕入れ値が上昇した分、採算が悪化。
- ・ 業者から化学製品関係の機械消耗品の値上要求があった
- ・ 原材料の値上げが続く、特に乳製品、チーズ系は30%アップ。なかなか商品に価格を転化できず苦戦
- ・ 投機的な石油や食材料の値上がりで利益が取れない。
- ・ 4月LPガス仕切り価格値下げ(多少)、その分灯油値上がり。不需要期になるがブタンの高値が続いているのでそれに引っ張られ、プロパン価格も再値上げになるだろう・収益悪化に耐えられるか？
- ・ 塗料メーカーが4月1日から一斉に値上げを通告してきた為、仕入れ価格は上昇し
- ・ すべての食材が値上がり、特に揚げ物用のてんぷら油が異常な値上げ。
- ・ 原材料値上げがペットフードで相次いでいます

◎売上減少

- ・ 建築基準法影響などで、受注が減っている
- ・ 売上高、利益の減少は当社固有の問題もありますが、商圈内の各商業施設も同様の状況にあるようです。食料品以外は、紳士服、婦人服を始め、これまで好調であった身の回り品(紳士・婦人雑貨系)においても厳しい状況にあります
- ・ 売上減少、雨の影響かも？
- ・ 昨年2月の店舗改装により、前年同月は3・4・5月と改装効果があったが、今月も売上は悪くないが、減少した。

◎先行き不安

- ・ 4月から一部の一般食品の値上げや、原油税の先行き不安、年金問題等により、消費者の購買力が減退ぎみになっている感があります。
- ・ 見切りに入った春物を中心に、低価格のものが売れているが、消費者の購買意欲は低く。先行き不安である。
- ・ 先行き不透明で非常に厳しい

平成20年4月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲41.9に対し、「CCI-LOBO」が▲50.4で、マイナス幅が8.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲38.6で、マイナス幅が22.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.9に対し、「CCI-LOBO」が▲47.1で、マイナス幅が0.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲66.6に対し、「CCI-LOBO」が▲55.9で、マイナス幅が10.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△4.9に対し、「CCI-LOBO」が▲3.8で、プラス幅が8.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.2に対し、「CCI-LOBO」が▲30.3で、マイナス幅が13.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。

平成20年4月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 41.9	 38.4	 20.0	 54.8	 47.0
CCI LOBO	 50.4	 64.6	 43.1	 52.8	 44.4

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.0	 7.6	 5.0	 19.3	 29.4
CCI LOBO	 38.6	 54.3	 25.5	 42.0	 36.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 46.9	 61.5	 30.0	 51.6	 47.0
CCI LOBO	 47.1	 61.4	 46.1	 42.7	 45.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 66.6	 84.6	 75.0	 61.2	 52.9
CCI LOBO	 55.9	 67.2	 63.5	 49.0	 53.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.9	 15.3	 15.0	 6.4	 29.4
CCI LOBO	 3.8	 20.9	 3.8	 2.0	 1.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.2	 23.0	 15.0	 9.6	 29.4
CCI LOBO	 30.3	 43.5	 25.3	 30.0	 27.7

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(4月の調査結果のポイント)

調査期間：平成20年4月22日～25日

調査対象：柏市内111事業所及び組合にヒアリング、回答数81

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	31.7	23.5	23.8	40.7	35.2
12月	27.8	35.7	±0.0	40.0	31.2
1月	32.9	46.6	20.0	34.4	33.3
2月	44.4	52.9	10.5	61.2	42.8
3月	40.5	57.1	22.2	54.8	18.7
4月	41.9	38.4	20.0	54.8	47.0
見通し	29.6	15.3	20.0	41.9	29.4

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIは依然としてマイナス40台 原材料高騰により、仕入れ単価では建設業がマイナス80台へ

4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、41.9(前月水準40.5)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業 38.4(同 57.1)、製造業 20.0(同 22.2)、変らない業種は卸小売業 54.8(同 54.8)である。マイナス幅が

拡大した業種は、サービス業 47.0(同 18.7)であり、マイナス幅が 28.3ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「建築基準法影響などで、受注が減っている(板金・金物工事業)」といったコメントや、「従業員の確保は出来たが、来年も人員確保ができるか心配。他業者の従業員確保及び、定着率の対策も参考にしたい(家庭用機械器具小売業)」といった従業員確保不安のコメントが寄せられた。

【製造業】では、「ピーク時には700台もの貼合機械が稼働していたが、最近では450台。相次ぐ再編成、工場統廃合、倒産、廃業等である(紙製容器製造業)」との厳しい業況に関するコメントがあった。

また、「建築基準法が今年4月より改正され、売値が変わらず、仕入れ値が上昇した分、採算が悪化。また、建築確認届出を改訂前は外部に依頼するところが出来たが、それができなくなり人件費増(その他の設備工事業)」といった建築基準法による影響のコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「春休みにより集客があったことや、マザーリース商材の動きが良かったことから、売上高は昨年を上回る好調な出足となった(各

種商品小売業

など、売上好調のコメントが寄せられたが、一方「飲食店、小規模商店など苦戦している。ただ、売上の悪い店と良い店との差がはつきり表れている(食料・飲料卸売業)」。売上高、利益の減少は、商圏内の各商業施設も同様の状況にある。紳士服、婦人服を始め、これまで好調であった身の回り品においても厳しい状況(百貨店)といった、厳しい業況に関する声も多く寄せられた。

また、「4月から一部の一般食品の値上げや、原油税の先行き不安、年金問題等により、消費者の購買力が減退ぎみになっている(食料・飲料卸売業)」といった、今後の先行きに対する不安の声も寄せられた。

そのほか「文具、事務機の見本市に行くが、世代交代がなく若手の顔が見えない(書籍・文房具小売業)」といったコメントも寄せられている。

【サービス業】では、「宿泊は柏市内では稼働率、一室単価ともに減。宴会は謝恩会等大型宴会増(ホテル)」といった声の他、「土口にお客様が集中して、平日の売り上げが伸びない(食堂・レストラン)」との声や、「先行き不透明で非常に厳しい(民間放送業)」といった、いずれも厳しい業況に対するコメントが寄せられている。

四月の景気キーワード

原材料高騰

各業種から「4月よりほとんどの材料が値上がりしているが、積算通りに予算が通らない。品質の低下にならないければ心配(電気工事業)」。原材料の値上げが続く、特に乳製品、チーズ系は30%アップ。なかなか商品に価格を転化できず苦戦(菓子・パン小売業)。「4月PCガス仕切り価格多少値下げ、その分灯油値上がり。不要期になるがブタンの高値が続いているのでそれに引つ張られ、一口パン価格も再値上げになるだろう(燃料小売業)」。原材料値上げがペットフードで相次いでいます(獣医療)といった原材料・原油価格高騰の影響の声が多く寄せられた。

また、一連の高騰に対し「PB商品の開発にグループ企業が一体となって取り組み、価格上昇を抑える努力をしている(その他の各種商品小売業)」などといったコメントも寄せられた。

【売上減少】
原材料高騰の影響から、各業種から「良い方向へは向いていないが、原料等の価格高騰により収益は伸びず(その他の鉄鋼業)」。投機的な石油や食材料の値上がりで利益が取れない(その他の食料

品小売業

「飲食店はむずかしい経営になっている。昨年2月の店舗改装により、前年同月は3.4.5月と改装効果があったが、今月も売上は悪くないが、減少した(酒場・ピヤホール)」などといった、売上減少の声も多く寄せられた。

先行き不安

「見切りに入った春物を中心に、低価格のものが売れているが、消費者の購買意欲は低く先行き不安(その他の各種商品小売業)」。先行き不透明で非常に厳しい(民間放送業)といった、先行きの不透明さへの不安の声が多く寄せられた。

CCI LOBOVの比較

全産業合計では、「柏の景気」が41.9に対し「CCI LOBOV」が50.4で、マイナス幅が8.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：平成20年4月16日～22日
 調査対象：全国の406商工会議所が2571業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況DIは5年ぶりにマイナス50台へ、仕入単価DIは14カ月連続で悪化

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、以下同じ)は、前月水準(46.9)よりマイナス幅が3.5ポイント拡大し、50.4となり、03年4月以来5年ぶりにマイナス50台となった。

産業別の業況DIはすべての業種でマイナス幅が拡大した。

景況に関する声、当面する問題としては製造など一部に好調(鉄鋼、機械関係の受注増加等)、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が多く聞かれる。

【建設業】「依然として公共・民間工事とも受注が減少しており、厳しい状況」(一般工業業)、「原油・原材料価格の高騰に伴う建設コストの上昇により、採算が大幅に悪化」(建築工業業)、「暫定税率の期限切れの影響により、発注が見送られ契約した事ができず、従業員のリストラが発生。今後は業者の廃業も予想される厳しい状況」(一般工業業)

【製造業】「原材料価格の高騰に伴う生産コストの増加と受注の減少により、採算が悪化」(繊維製品製造業)、「販売価格の値上げを実行し、採算は確保できるようにしたが、仕入価格も上昇しており、今後も厳しい状況が続く見込み」(工業用プラスチック製造業)といった窮状を訴える声が多く寄せられている。ただし、中には「中国産製品の敬遠により、国内加工企業への受注が増加」(水産食品製造業)といった声も聞かれる。

【卸売業】「包装資材等の価格上昇により、必要経費が利益を上回り、経営を圧迫」(農畜産水産物卸売業)、「鉄関係の製品価格は数年前の2倍以上に高騰、原油価格も上昇傾向、先行きが不透明な状況」(建築材料卸売業)、「売上の減少や採算の悪化に伴う長期間の不況により、倒産が大幅に増加」(家具・建具等卸売業)

【小売業】「各商品の値上げに伴い、消費者の購買意欲が低下し、売上は停滞気味」(百貨店)、「採算が悪化し、従業員を雇えない状況」(その他の小売業)、「大規模なショッピングセンターの進出が決まり、今後の悪影響を懸念」(その他の小売業)

【サービス業】「売上は増加も、食材価格の高騰の影響で採算は悪化」(食堂・レストラン)、「原油価格が最高値を更新するなど、経営が厳しい状況」(運送業)、「宿泊客数の減少に加え、各種仕入価格の高騰により採算が悪化」(旅館)

四月のキーワード

更なる悪化への懸念

各業種から業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が多く寄せられている。建設からは、「受注価格の下落と競争激化により、今後への不安感が増大」(東京・建築工業業)とのコメント、製造からは「材料費が4月より再値上げとなるが一方で受注先からはコスト低減の要求が強く、厳しい状況」(佐野・金属加工機械製造業)との声が多く寄せられている。

また、小売、サービスからも「地元企業の倒産が続く一方競合店の出店も予定されるなど、今後も厳しい状況となる見込み」(盛岡・百貨店)、「仕入価格の上昇幅がさらに拡大し、今後の採算の悪化を懸念」(深谷・その他の小売業)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの更なる上昇

各業種から原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が多く寄せられている。建設からは、「今月に入り鉄鋼、

金属などの資材価格は一段と高騰しており、厳しい競争の中での価格転嫁は難しく、収益を圧迫」(静岡・一般工業業)、「木材、建材、金物等の価格が10～15%上昇するなど厳しい状況」(上田・他の職別工業業)とのコメント、製造からは、「原材料価格の高騰に加え、一部材料は入手が困難な状況」(函館・一般産業用機械製造業)、「原材料である鋼材価格は依然として高値で推移しており、コスト増に見合った販売価格に転嫁できない状況」(静岡・自動車・付属品製造業)との声が多く寄せられている。また、小売からも、「原料価格高騰の影響により、日用品の値上げが顕著、売上への悪影響を懸念」(松戸・百貨店)といったコメントが寄せられている。

暫定税率失効の影響

今月は建設業から、道路特定財源の暫定税率の期限切れに伴う受注への悪影響や、先行きに対する不安を訴える声が多く寄せられている。「各自治体の道路関係予算に一時凍結の動きがあることから、予算執行が大幅に遅れることとなり、当面の資金繰りが困難」(盛岡・一般工業業)、「公共工事減少への追い打ちを懸念」(沼田・一般工業業)、「道路工事の発注が遅れ、業況がさらに悪化する見込み」(札幌・一般工業

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲36.1	▲46.8	▲29.2	▲45.6	▲36.0	▲32.6
12月	▲40.8	▲57.3	▲34.9	▲44.9	▲39.0	▲37.1
1月	▲47.9	▲58.1	▲40.4	▲55.6	▲49.2	▲44.5
2月	47.5	57.7	40.3	57.7	49.1	42.7
3月	▲46.9	▲59.4	▲41.3	▲47.3	▲48.4	▲43.3
4月	50.4	64.6	43.1	53.6	52.8	44.4
見通し	47.1	60.5	46.8	41.1	47.2	40.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

業)、「新年度の工事発注が極端に少なく、先行き見通しも全くできない状況で、廃業や従業員のリストラが発生」(倉吉・一般工業業)といったコメントが寄せられている。

また、輸送関連の製造業からも、「急速な円高が収益減少の要因となっている」(金沢)、「金属製品製造業」(田高)による企業経営への悪影響を懸念」(相模原・金属加工機械業)といった声が多く寄せられている。